

高等学校

教科【地歴】

単元【地理総合：生活文化の多様性と国際理解】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

一人で取り組むよりも多様な情報が入るような授業をデザインし、他者との協働を通して、自らの考えを広げるとともに、深めることができる。

ICT活用のポイント

Jamboardを使用することで、「①全ての生徒に発言しやすい環境 ②多人数でのブレインストーミング ③他グループの思考結果を瞬時に共有」が実現する。

使用する
ICT機器

P C

使用するアプリ・
クラウドサービス等

Google：Classroom

「ジャムボード」「フォーム」

クラウド
の活用☐教材の配布・回収等
☒生徒の学習状況の把握☒資料等の共有
☐その他（ ）本時の
ねらい

世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性の要因を多面的・多角的に考察し、表現する。

主な学習活動
(学習場面)

I C Tの活用・留意点等

評価

導入

本時の問い「インドネシアの生活文化は、どのように育まれてきたのだろうか」

○資料提示

一斉

インドネシアの生活文化（衣食住・産業）の特徴的な写真を貼ったシートを「ジャムボード」で提示する。

問い「なぜ、そのような生活文化がみられるのだろうか」

○課題説明

一斉

- ① 例「高床の家＝高温の気候であるため」のように、それぞれの写真から特徴を読み取り、理由を考える。
- ② それぞれ考えたものを、自然システム的アプローチ（自然環境の影響という観点）と社会・経済システム的アプローチ（社会環境の影響という観点）に分類する。

展開

○考察

協働

指針3

グループワーク（4～10人で1グループ）

クラウド

Step 1

グループごとに与えられジャムボードのシートに自分の考えを入力した付箋を貼っていく。

Step 2

貼られた付箋を「自然システム的アプローチ」と「社会・経済システム的アプローチ」に分類していく。

【留意点】
なるべく多くの付箋を貼ることを優先するように促す。

Jamboardの画面



「付箋機能」によって貼り付けることができます。複数の生徒で同時編集（多人数でシートに付箋を同時に貼っていく）ことも可能です。

本時の問い「インドネシアの生活文化は、どのように育まれてきたのだろうか」の解

個別

全グループで完成させたシートを閲覧することで思考を共有し、そこから、本時の問いの解を個人で考え文章で表現する。

ここで評価

終末

作成した文章をフォームに入力する。

クラウド

【知】自然及び社会条件の影響を受けていることを理解している。

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度